

2

災害対応力を育てる - 取り組み事例紹介 -

(2) 兵庫県立大学の取り組み

兵庫県南あわじ市での取り組み

1. 南あわじ市阿万地区の「子ども×大学生 防災キャンプ」

巨大な災害時には、避難所での生活を余儀なくされます。避難所生活は平常時の生活とは異なり、火、電気や水などが自由に使えないなど制限された状況になります。このような状況での生活を模擬的に体験し、困難を生き抜くすべを知ってもらうためのアクティブラーニング型防災キャンプを小学生を対象に実施しました。企画・運営には大学生が携わり、防災・減災対策の理解を自ら深め、防災リーダーとしての素養を培ってもらいます。キャンプの概要は以下の通りです。

- 1) 開催日時：2017年8月23日13時～24日13時(1泊2日)
- 2) 開催場所：南あわじ市吹上浜野外活動センター(吹上浜キャンプ場)
- 3) 参加者：南あわじ市阿万小学校3年～6年生の19名
- 4) 企画・運営者：兵庫県立大学防災教育ユニット特別専攻生及び学生災害復興支援団体LAN
(Leaders' Active Network)メンバーの20名
- 5) 活動及びワークショップの内容：
 - ① まちの地震・津波リスクを学ぶまち歩き
 - ② 防災クイズに答えて夕食材ゲット
 - ③ 限られた水と食材を用いた夕食づくり
 - ④ 薪を用いた火熾しと火のコントロール
 - ⑤ キャンプファイヤー
 - ⑥ テントでの宿泊
 - ⑦ 防災カルタの体験
 - ⑧ 防災グッズの作成



防災キャンプに参加した大学生と小学生



防災クイズに答える小学生



限られた水と食材で夕食づくり



紙食器を作成する小学生

参加した小学生からは、(a)水の大切さがわかった、(b)災害に備える方法とその重要性がわかった、(c)楽しく防災について学べた、(d)皆で実施したキャンプそのものが楽しかった、(e)来年もまた参加したい、そして(f)家族にキャンプで学んだことを伝える、といった感想や意見がありました。また、運営側の大学生からは、(g)準備からいろいろと考え開催当日まで悩んだが、小学生達が楽しんで防災について学んでくれたようでよかった、(h)企画・運営の難しさと楽しさを体験できた、さらに(i)コミュニケーションが大切だということがわかった、との感想がありました。

2. 南あわじ市福良地区の「津波防災フォーラム」

市民向け津波防災の啓発イベントであるフォーラムを平成29年9月3日に南あわじ市福良公民館で開催しました。兵庫県淡路県民局の主催でしたが、兵庫県立大学の防災教育ユニット特別専攻生とLANの学生、大学院減災復興政策研究科院生、そして兵庫県立舞子高等学校環境防災科の生徒の協働で企画・運営しました。フォーラムの内容は以下のとおりで、一般市民の参加者は約100名でした。

- ① 東日本大震災被災地の語り部さんによる講演(ホテル観洋:伊藤氏;大人向け)
- ② 防災お菓子リュック作り(NPO法人「おいしい防災塾」;子ども向け)
- ③ 津波避難の大切さを伝える防災劇(大学生と高校生の共同制作)
- ④ 防災食クッキング(兵庫県立大学LANメンバー)

- ⑤ 防災グッズの紹介と作成(兵庫県立大学LANメンバー)
- ⑥ 建物倒壊や液状化の災害メカニズムを伝える模型展示(舞子高等学校生徒)
- ⑦ 防災クイズ(舞子高等学校生徒)



開催前のフォーラム会場の様子



講演会の司会をする高校生と大学生



防災お菓子リュックづくり



津波避難の大切さを伝える防災劇

福良地区は、南海トラフを震源とする巨大地震が発生した場合、兵庫県下で最大の津波(約8m)が予想されている地域です。前年までは講演会を中心とする知識偏重のフォーラムでしたが、高校生、大学生と大学院生が協働で、これまでにない内容のフォーラムを企画しました。特に、災害時に大きな力となる中高生から子育て世代といった若い世代にも参加してもらいたいとの趣旨で、若い世代の興味を引く、アクティブラーニング型の内容を多く取り入れました。そのおかげで幅広い世代の市民に参加してもらえるイベントになりました。

参加した住民からは、(a)新たな学びがあった、(b)若い世代が運営することで新鮮な刺激があった、また小学生の参加者からは(c)防災お菓子リュックづくりや防災食、そして防災劇が楽しかった、地元自治会からは(d)今後も引き続き、福良地区に関わって防災対策を進めて欲しい、との感想や意見をいただきました。

運営側の高校生や大学生にも防災リーダーとして育つ上での学びがあり、フォーラムを実施するまで多くの時間を費やす中で、特に開催までの検討プロセスの重要性に気づいたようでした。このフォーラムの内容と生徒・学生たちの

学びを、平成29年11月5日に東京大学で行われた内閣府主催の「津波防災スペシャルゼミin 本郷」で紹介しました。

神戸市東灘区・東灘小学校区での取り組み

神戸新聞社主催で始まった「避難所もっとより良くプロジェクト」が実施した「東灘小学校避難所開設訓練」に参加しました。このプロジェクトの実行委員として兵庫県立大学教員2名(大学院減災復興政策研究科;森永速男教授と浦川豪准教授)が参画し、学生プロジェクトメンバーのファシリテーターとして同研究科の大学院生2名が加わっています。

このプロジェクトでは、兵庫県下各大学から集まった学生有志が東灘小学校区の防災福祉コミュニティと連携して、巨大災害時に住民主体でスムーズに避難所が開設・運営できるようなマニュアル作りを進めています。平成29年12月9日にその第1回目となる「避難所開設訓練」が、プロジェクトメンバー、防災福祉コミュニティ役員と東灘小学校教職員からなる運営スタッフ約30名、避難者役の一般住民参加者約50名で行われました(兵庫県立大学防災教育ユニット特別専攻生及び減災復興政策研究科院生の10名も避難者役として参加しました)。開設訓練は2回実施され、1回目の訓練で問題点を見出し、それを改善して2回目の訓練を実施しました。

1回目より2回目の訓練の方がスムーズに避難者を受け入れることができました。参加者から、まだまだ課題があるものの、(a)避難所開設の難しさを理解でき、さらなる訓練の必要性を感じた、(b)小学校の校長先生もしくは市民リーダーの役割が重要と認識できた、(c)訓練を繰り返すことでもっと良い避難所の開設と運営ができる、そして(d)今後もプロジェクトを継続して欲しい、などの感想・意見をいただきました。このプロジェクトは平成30年度にも引き続き行われる予定になっています。



避難所開設を待つ避難者役の市民



避難者対応受付と避難者役



仮設トイレの設置訓練



訓練後の振り返り